

教団新報

定価 1部144円(本体133円+共206円)
 予約購読料 1年分 5,150円
 紙代のみ 3,600円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 URL http://uccj.org
 発行人 秋山 徹
 編集主筆 渡邊 義彦
 印刷所 株式会社きかんし



会津の高校生たち、台湾へ

夏、教区の伝道プログラムを展開

《西中国教区・東中国教区》
山陰ファミリーキャンプ

《奥羽教区》
ユースサマーキャンプ

《東北教区》
台湾との交流

★《東北教区》台湾との交流 宣教協約の実質化のため

7月15日から20日ま

で、台湾基督教長老教会の青年修養会に参加した。2018年東北教区総会において台湾基督教長老教会嘉義中会との宣教協約が締結され、実質化を図り、先方より青年の参加を呼びかけられたことがきっかけである。今回、会津北嶺高校より生徒有志8名の参加が許された。

会場となった鹿谷郷は、台湾有数の茶の産地である。茶席を通して、神様が共におられ聖霊の働きを感じようという趣旨の修養会だった。趣旨通り、日中は茶席の基礎知識を座学し実践として茶席作法を学び、夜は聖書の学びとテゼの祈りを行うプログラムが組まれた。

その一方、日本も戦争によって大きな痛みを負った。互いの痛みを分かち合い、双方の歴史を認識し理解することによって、本当に愛し合うことができる。だから、イエスが私たちのために負われた痛みを重ね合わせ、お茶とバナナを共に味わおうと語られ、愛餐を共にいただいた。主イ

エスの愛が満ち溢れる中で、真の和解がもたらされるよう祈りをささげた。

台湾の方々の深い愛情を感じ、今後も続く交わりの中で、さらに良い関係を築く祈り願いに応えられるよう歩んでいきたいと固く思う時となった。

宣教協約締結によって
(新田恭平報)

★《奥羽教区》ユースサマーキャンプ 長年にわたり続けられてきた

奥羽教区ユースサマーキャンプ(ユースキャン)は今年で66回目となる。共同生活の中で自分のこれからの見つけに行く場である。おおまかなプログラムの中、キャンパーとヘルパーは、自然に自発的に交わり打ち解けた。楽しく、元気に、賛美し、祈り、働き、食べ

た。8月7・9日の三日間だった。今年北東地区が開催地で、奥中山教会を会場に宿泊し自然の恵みを感じた。中高生キャンパー4名、ヘルパー5名、スタッフ5名、ヘルパーはユースキャン経験者で世代がキャンパーに近く、海外の方もいて色々な賜物を出し合い、今までの積み重ねに新たな形を加える。今年は食前にフラノスの賛美を歌った。食事は自炊で協力し作る。朝食にはカナン牧場のできたてのパンを食べるのも楽しんだ。

一日目の夜は、奥中山教会の祈禱会に出席し新たな導きもたらさを感じ、会津の高校生に今回のような出会いと交わり、学びの機会が与えられた。

主の豊かな恵みに、深く感謝する。
(小友 睦報)



アドナイ・エレ、主は備えたもう

★《西中国教区・東中国教区》山陰ファミリーキャンプ 教区を越えたプログラム

西中国教区山陰東分地区と東中国教区鳥取県西部地区では、毎年夏に「山陰ファミリーキャンプ」を共催している。

今年8月7・9日、岡山・真庭市の「蒜山パブルキャンプ」で行い、32名の参加があった。両区外からも多くの参加がありにぎやかなキャンプになった。

子どもたちを中心として、子どもたちを共に毎週のように教会に通っている子どももいれば、キリスト教に触れるのはこの二泊三日だけという子どももいる。そのような子どもたちが、大自然の中で、仲間と一緒にキリストの愛にふれる機会になればと願っている。

教会単独ではこのようなプログラムを持つことができない教会が少なくない。参加者を送り出すのも難しい中で、このキャンプの意義を認め大切にしてくれている両分区・地区内諸教会の思いによって続けられている。

ことも強く思われる。
(奥田 望報)



ファミリー、子どもも大人も

参加して
いる説教を
学ぶ会で久
し振りに自
分の語った
説教を分析
してもらった。同労者が
集う中で組板に乗ること
はやや勇気のいることだ
が、信頼できる仲間から
の確実な手応えが帰って
くるので良い経験にな
る。▼提供した説教につ
いての印象ではあるが、
短い論理の連続、彫り
(掘り?)の浅さ、と指
摘されたことが気になっ
た。記事を校正すること
や、このコラムを書くこ
とが生活の比較的大きな
ウェイトを占める中での
ことであろうか、と思わ
された。限られた文字数、
行数の中で言葉を展開し
事柄を伝えなくてはなら
ないのが本紙の使命であ
る。事柄を論理的に展開
したり、言葉を費やし掘
り下げ、メリハリをつけ
たりには自ずと限界があ
る。そもそも、そんなこ
とは求められていないと
言える。▼どのような言
葉に触れてきたか、触れ
ているか。激しい言葉か、
優しい言葉なのか。怒り
の言葉か、慰め、励まし
の言葉なのか。これまで
受けてきた言葉、今受け
ている言葉が語る言葉に
も表れてくることある
にちがいない。良い言葉
に聞き続けなくては、と
思う。教会を建て上げて
行く言葉に聞き続け、語
らなくては、と改めて
思っている。

荒野
説教を分析
してもらった。同労者が
集う中で組板に乗ること
はやや勇気のいることだ
が、信頼できる仲間から
の確実な手応えが帰って
くるので良い経験にな
る。▼提供した説教につ
いての印象ではあるが、
短い論理の連続、彫り
(掘り?)の浅さ、と指
摘されたことが気になっ
た。記事を校正すること
や、このコラムを書くこ
とが生活の比較的大きな
ウェイトを占める中での
ことであろうか、と思わ
された。限られた文字数、
行数の中で言葉を展開し
事柄を伝えなくてはなら
ないのが本紙の使命であ
る。事柄を論理的に展開
したり、言葉を費やし掘
り下げ、メリハリをつけ
たりには自ずと限界があ
る。そもそも、そんなこ
とは求められていないと
言える。▼どのような言
葉に触れてきたか、触れ
ているか。激しい言葉か、
優しい言葉なのか。怒り
の言葉か、慰め、励まし
の言葉なのか。これまで
受けてきた言葉、今受け
ている言葉が語る言葉に
も表れてくることある
にちがいない。良い言葉
に聞き続けなくては、と
思う。教会を建て上げて
行く言葉に聞き続け、語
らなくては、と改めて
思っている。

◆宣教委員会◆

宣教方策会議、青年大会について協議

8月27、28日、第2回宣教委員会が別府教会を会場に開催された。前回以降、全国教会婦人会連合委員長が改選され、横山ゆずり新委員長が出席者として加わった。常議員会及び各委員会からの報告を受けた後、以下の議題を協議した。

①宣教方策会議に関する件。主題は「伝道推進と機構改定をめぐって」日本基督教団のこれから」と決定。この方策会議で教団の打ち出している「伝道推進と機構改定」の双方の整合性が明確になることが主題の意図である。教団伝道推進基本方針が神学的に位置づけられ、それに立脚して機構改定を考える筋道が、この方策会議で明確になることを期待して実

施することを確認した。また、主題に対する各教区の見解をなるべく多く発言してもらうため教区報告は5教区に増やした。また、「教団と距離を置く」としている沖縄

の結果、賛成9名、反対1名で、第42総会期中の実施が承認された。委員会は若手教職5名が推薦された。常議員会とのパイプ役等のためシニア世代のスーパーバイザーが必要であることが確認事項となった。

③「開拓伝道援助資金の実施要綱」改正に関する件。資金援助の条件に「経常収入600万円未満の教会・伝道所の申請に基づき適用。原則として事業総額5000万円を超えないものは適用しない」という条件を新たに定めたものを承認した。その他、別府野口教会、別府不老町教会を問安することができた。

（田中かおる報）

のさらなる課題についても考える時となった。講演とゼミ、レスポンスもとても内容豊かで、参加者一同が貴重な学びと励ましを受けた。

また三日間、計6回の分団協議の時を持ち、二日目午後にはバネルディスカッションの時を、夜には小島ゼミ、中道ゼミと分かれて講師と過す時間を充実して持った。また教師養成制度検討委員会（岡本知之氏（洛北教会牧師）と菅原力氏（新生教会牧師））には、それぞれ講演を受けてのレスポンスをしてもらった。二つの講演を掘り下げ、また説教と牧会について

◆第2回 教師継続教育研修会◆

「説教と牧会」をテーマとして

第2回教師継続教育研修会が、8月20、22日、ハートピア熱海にて開催された。テーマは「説教と牧会」とした。昨年と同じ主題を取り上げたことを懸念する声もあったが大事なテーマであり、新たな講師を立て、プログラムにも工夫

者・牧会者として歩んできた体験を語り、実存のかかったその話に参加者一同、引き込まれるように熱心に聞き入った。中道氏は、実践神学担当教授として、神学部での豊かな知識に基づき牧会について歴史を辿り、牧会と説教を結びつける終末

的希望の物語としての聖書の全体性の回復と、それが個々人の物語と結ばれることが大事であると語った。

各講演のあとに2回の分団協議の時を持ち、二日目午後にはバネルディスカッションの時を、夜には小島ゼミ、中道ゼミと分かれて講師と過す時間を充実して持った。また教師養成制度検討委員会（岡本知之氏（洛北教会牧師）と菅原力氏（新生教会牧師））には、それぞれ講演を受けてのレスポンスをしてもらった。二つの講演を掘り下げ、また説教と牧会について

（上原智加子報）

のさらなる課題についても考える時となった。講演とゼミ、レスポンスもとても内容豊かで、参加者一同が貴重な学びと励ましを受けた。

また三日間、計6回の分団協議の時を持ち、二日目午後にはバネルディスカッションの時を、夜には小島ゼミ、中道ゼミと分かれて講師と過す時間を充実して持った。また教師養成制度検討委員会（岡本知之氏（洛北教会牧師）と菅原力氏（新生教会牧師））には、それぞれ講演を受けてのレスポンスをしてもらった。二つの講演を掘り下げ、また説教と牧会について

◆全国キリスト教学校人権教育セミナー◆
想像力をもとう

第30回全国キリスト教学校人権教育セミナーが8月5、7日、大阪クリスチャンセンタ―と大阪女学院中学校を会場に開催。主題「『想像力をもとう』―出会いから無関心・不寛容な時代を変える」。

開会礼拝はカトリック大阪大司教区補佐司教ヨセフ・アベイさんの安息日に手の萎えた人を癒した箇所からの説教。第二次世界大戦の反省から1948年に国際連合で採

高の解放教育の報告。二日目は大阪女学院中高のハンドベルの演奏に耳を傾け、祈りの時間を守って始まる。社会トークセッションは「人権教育これまでこれから」というテーマで、6名の若手・ベテランの教師から学校現場で格闘している生の声を聞き、牧会にも通じる癒しの言葉に励まされた。

分科会は八つのグループが用意され、私は教団の在日韓朝鮮人連帯特設委員としての出席だったため、「外国にルーツを持つ子どもたちと共に生きる」に参加。前日、炎

（入 治彦報）

天下のオブショナル・フィードバック「生野コリアンタウン」のコースで在日韓朝鮮人に対するヘイトスピーチの暴力的な現場を収めたビデオが紹介された。そのため、分科会担当者の「日本は今や完全に移民社会なのに、日本政府は移民政策をとっていない。米・加・英・仏各国は1万人から2万人の難民を受け入れてきたけれども日本はこの30年に500人」という言葉が胸にこたえた。最終日は聖書研究、派遣礼拝が行われ散会した。



熱海に 46 名集う

◆カナダ青年研修ツアー◆

《バンクーバー交流&研修ツアー》

歴史と現代の課題を実際に学ぶ

みなく行われているため、カナダ合同教会の社会奉仕活動に学ぶ、となった。

参加者は経験も関心も英語力も様々だったが、それぞれに学びの課題を持ち、訪問先での出会いを通して多くを感じ考え、日本社会と歴史、教会のあり方を見つめ直すよい機会となった。

先住民の歴史と日系カナダ人の戦争中強制移動の歴史は、多民族多文化を受け入れ尊重し、誰もが平等な恩恵を受ける社会を目指しているカナダ史の汚点とも言える。多くの移民難民を受け入れてきたカナダもその成立は植民地支配に始まり、民族差別は今もなお根深く残っている。先住民の歴史を追体験するエクササイズや先住民長老の体験談、ホームレスの街ダウンタウン

最後に、ツアーを共に企画し、強い社会正義への信念を持って学生をリードしてくださったカナダ長老教会信徒、カイロス（社会正義を求めるキリスト教超教派NPO）プリティッシュ・コロンビ代表のジャネット・マッキントッシュさんに深い感謝をささげた。

（木原葉子報）



先住民の歴史を追体験するエクササイズ

◆信仰職制委員会◆

諮問3件について答申

第2回信仰職制委員会に言う「正教師とは、正教師検定試験に合格し」が、7月22～23日、教団会議室で開催された。前回議事録承認の後、継続諮問について背景にある事実関係について確認後、協議した。

次いで3件の諮問について協議した。諮問及び答申は次の通り。

＊

《諮問①》関東教区常置委員会、および関東教区総会議長・東野尚志より

1. 教規124条①に「正教師とは、正教師検定試験に合格し、教区総会連合で受けた「按手」を関東教区総会が正式な按手として認める」という規定を、按手礼を領したものとすると規定されています。そこで改めて確認したいのは、このたびの阿部教師の正教師検定試験合格とは、上記教規124条①

2. 上記の理解が正しいとすると、阿部教師を正教師として登録するためには、教規124条の「教区総会の議決を経て按手礼を領する」ことが必要となりますが、その場合の「教区総会の議決」とは、同教師が1979年5月29日に福音主義教会連合で受けた「按手」を関東教区総会が正式な按手として認めるという議決でも可能なのでしょうか。それとも、教団信仰職制委員会「教憲教規の解釈に関する答申集」76（1983年9月1～2日付けの答申「福音主義教会連合」の按手礼は、教憲教規による正規の手続を経てなされたものではない」とに従い、たとえ関東教区総会が当該「按手」を認めたとしてもそれは上記答申76の答申に反したものであるとして無効でしょうか。

《答申》

1. について

主観教会連合の按手礼は、教憲教規による正規の手続を経てなされたものではない」とに従い、たとえ関東教区総会が当該「按手」を認めたとしてもそれは上記答申76の答申に反したものであるとして無効でしょうか。

2. について

当該教師は、正教師検定試験を受験し合格して、教団の正教師としてすでに承認されているので、正規の手続を経ていると認められます。ゆえに、当該教区で教区総会の議決を経て按手礼を領することができます。

＊

《諮問②》中部教区総会議長・田口博之より

教規第63条④に「補欠による議長、副議長および書記の任期は、各その前任者の残任期間とする」とありますが「補欠による」とは、何を意味するのでしょうか。

《答申》「補欠による」とは、任期途中で欠員が生じた場合、何らかの方法で補充することを意味します。

＊

《諮問③》四国教区議長・黒田若雄より

四国教区は、教区総会において聖餐式を執行してきました。この根拠として、日本基督教団教憲第6条にある「教会的機能」の中に位置づけられていると理解してよろしいでしょうか。

《答申》教区総会における聖餐執行は、教憲第1条にある本教団の本旨に沿う行為と理解されます。

＊

（田村 博報）

◆第22回 部落解放青年ゼミナール◆

「新たにきづく」ために

第22回部落解放青年ゼミナールが、8月21～23日に大阪・大正めぐみ教会を会場に開催された。部分参加も含めて28名の参加があった。今年は「新たにきづく」をテーマに、太鼓の町として有名な大阪市浪速区で学んだ。部落解放同盟浪速支部の協力を得て、地域の歴史の学びとフィールドワーク、そして「リバティおおさか」の視学をした。

青年ゼミ」と題して、太鼓の町として有名な大阪市浪速区で学んだ。部落解放同盟浪速支部の協力を得て、地域の歴史の学びとフィールドワーク、そして「リバティおおさか」の視学をした。

部落解放同盟の資料室で地域の昔の写真を見た。川を挟んであちこちから建物作りが全く違ふ様子は、当時の厳しい差別を象徴しているように感じた。この地域は江戸時代までは太鼓の町として非常に栄えたそうだが、差別の中でも、人々はプライドと気概をもった。

部落解放同盟の資料室で地域の昔の写真を見た。川を挟んであちこちから建物作りが全く違ふ様子は、当時の厳しい差別を象徴しているように感じた。この地域は江戸時代までは太鼓の町として非常に栄えたそうだが、差別の中でも、人々はプライドと気概をもった。

め、こどもたちの教育に力を入れていた。現在は「リバティおおさか」となっている旧栄小中学校は、ほとんどが地域の人たちの資金で建てられた。この場所には日本でも唯一の人権の博物館が存在していることの意味は非常に大きい。

最終日の振り返りでは、みんなで歌を作った。事前にもう一度この歌に合わせ、グループ毎に青年ゼミでの出来事を振り返り新しい歌詞を作った。一人一人が青年ゼミでの経験から言葉を選ぶことで、自分自身の差別意識と向き合うこととなった。そして最後にみんなが希望をもって歌った。

私たちは「気付いた」差別をそのままにせず、差別と向き合い、新たな関係を「築く」ことで解放への道を歩みたい、その思いを新たにしたい。三日間だった。

（松村光司報）

事務局報

村川弘一氏（無任所教師）



19年5月23日逝去、89歳。樺太生まれ。53年日本基督教神学専門学校卒業。同年より関東学院六浦高校、静岡英和女学院に務める。遺族は妻・村川博子さん。

永田哲郎氏（無任所教師）



19年6月1日逝去、81歳。兵庫県生まれ。99年受允、01年受按。99年より北柏めぐみ、菓田台、北柏めぐみ、我孫子教会を牧会。遺族は妻・永田ふさ子さん。

吉新 緑氏（無任所教師）



19年8月27日逝去、84歳。大分県生まれ。11年東京神学大学卒業。12年より18年まで杵築教会を牧会。遺族は息・吉新主門さん。

雨宮栄一氏（隠退教師）



19年8月26日逝去、92歳。大分県生まれ。11年東京神学大学卒業。12年より18年まで杵築教会を牧会。遺族は息・吉新主門さん。

宇都宮秀和氏（無任所教師）

17年11月29日逝去、83歳。神奈川県生まれ。62年青山学院大学卒業。65年より昭島、ベテル教会を70年まで牧会。遺族は妻・宇都宮雅子さん。



19年8月27日逝去、89歳。東京都生まれ。65年日本聖書神学校卒業。同年より須賀川、山都、熱海教会を牧会し、02年隠退。遺族は夫・渡辺晋さん。

久保恵三郎氏（無任所教師）



18年10月20日逝去、87歳。兵庫県生まれ。96年同志社大学大学院卒業。同年より神崎川、仁川教会を牧会。遺族は妻・久保恭子さん。

信徒伝道者異動

西仙台 辞 井谷 淳

《公告》

「教団新報」は、消費税・郵便料金値上げのため、4912号（10月12日発行）より、1部150円に、郵送料共214円に変更いたします。

尚、年間購読料は、10月1日以降申込み分より下記の通りになります。

◎定価

1部	150円（現行144円）
郵送料共	214円（現行206円）

◎年間購読料

紙代のみ	3,750円（現行3,600円）
郵送料共	5,350円（現行5,150円）

（総幹事 秋山 徹）

宣教師からの声

受け継がれた「敬神愛人」のバトン

—名古屋学院創設者 フレデリック・チャールズ・クライン宣教師—

大藪 博康

(名古屋学院 名古屋中学・高等学校 宗教部長)



左・F・C・クライン宣教師(1857～1926)

右・名古屋学院エンブレム



呼ばれていた。人口約 15 万人。日本で第 4 番目の都市であった。

ある日本人牧師がクライン博士に言った。「名古屋は保守的な城下町で仏教の力がたいへん強く、宣教師にとっては開拓の難しい不毛の地です」。この言葉がクライン博士の開

拓者精神に火をつけた。「理想を実現するために一番困難な場所を選んで道を開くのが私の使命だ」。横浜は外国人居留地があり、宣教師や多くのアメリカ・ヨーロッパ人がいて伝道も盛んであった。しかし、名古屋は儒教と仏教、古からの神社があり伝統的宗教を重んじる町。キリスト教は邪宗教であると考え人の多い町であった。そこにクライン博士は身を投じていった。名古屋学院設立は初めから茨の道であった。

1887 年（明治 20 年）7 月 11 日「愛知英語学校」設立。50 名募集して 12 名が集まった。民家を改造した校舎。校長クライン博士、校主山根虎次郎。開設からしばらくして、山根が言った。「クラインさん。ここは英語を教える学校です。キリスト教を教えるのは困ります。私の思想とも反するし、人々に嫌われます」。漢学者である山根は当時の名古屋の人々の思いを理解する人物であった。当時、英語を学ぶことが身を立て世に出る第一歩と考えられ多くの人が英語を学んだ。しかし宗教は伝統的なものを重んじるのでキリスト教はいらない。そのような人々の思いを山根はクライン博士に伝えた。更に県教育局から「教科から聖書を外すよう」と指示があった。県教育局長からも「14 歳以下の生徒に公式に宗教教育を施すことは禁止

する。教科課程から宗教の授業を外すならば開校を許可する」との指示。クライン博士は学校内外から反発を受けた。

それらに対しクライン博士は「毎日正科として聖書による宗教教育を行う」、「教育は知識だけを教えるものではない、心も教え育てなければならぬ。そのための宗教でありキリスト教なのだ」と一歩も引くことはなかった。当時の総理兼外務大臣である伊藤博文に「直訴状」を送り、正式にキリスト教学校として認めてもらうことを訴えた。直訴は却下されたが、結果的に県教育局との折合いをつけて、申請書の「聖書」を「彝倫（いりん）道徳」と改め、県から宗教教育には干渉しないとお墨付きももらい、名古屋英和学校が公認されることとなった。開設当時の仲間であった山根とは襟を分かち形となった。ここに名古屋英和学校の教育の指標が「敬神愛人」と定まった。

1888 年 7 月 11 日、民家を改造した校舎が崩れるという不思議な出来事が起こった。開校からちょうど 1 年。幸いけが人はなかった。それをうけてクライン博士は本格的な校舎建設に乗り出した。建設資金を集めるためにアメリカに一時帰国した。1889 年から西洋風校舎建築工事はじまった。1890 年、アメリカの教会で名古屋の学校のために集めた献金を携えてクライン博士が名古屋

に帰ってきた。完成した西洋風の校舎は人々の目を引いた。

クライン博士がどのように聖書や英語を教えていたか、それを知る手掛かりは少ない。第一期生の牧野義雄（英国で画家として有名になる）によると、全人格を通して教育し、愛情と信仰深い生き方を生徒たちに示したことが語られている。

1893 年、人々に惜しまれながら、病氣治療のためにクライン博士はアメリカに帰国した。6 年に満たない期間であったが、クライン博士の命がけの働きによって「名古屋英和学校（のちの名古屋学院）」は誕生し、歩みをはじめたのであった。

その後、クライン博士はアメリカでメソジスト・プロテスタント教会の役職を歴任し生涯を神様と人のために捧げ尽くした。1926 年メリーランド州パーウィンの自宅でこの世での働きを終え、神様の御許に帰った。

明治の時代、日本全国にこのようなキリスト教学校が宣教師の尽力によって誕生した。宣教師の人格に触れ、多くの日本人が感化され、キリスト者となっていった。名古屋英和学校でも、クライン博士の生き方、信仰が生徒、教員に引き継がれていった。「敬神愛人」のバトンはその後、130 年たった現在に至るまで受け継がれている。

(Kyodan Newsletter より)



吉崎 優子さん

帰る場所があると気づかせてくれた



富山県氷見市生まれ。長年幼稚園に勤務した。高岡教会長老、教会学校教師。

「あなたがたが選んだのではなく、神様があなたがたをこの学舎に選ばれたのだ」北陸学院短期大学保育科の入学式でこのような言葉を聞いて、学生時代に高岡教会で受洗した。

卒業後は、浜松の教会近くに幼稚園を建てる牧師の働きを短期間、見てきた。その後、郷里の氷見市に帰ってきて、富山県内のキリスト教保育園に 2 年ほど勤務。そのうち地元、氷見市のアソカ幼稚園への話をもらった。仏教の幼稚園だった。住職はモンテッソーリ教育を目指し、クリスチャンの自分がそこで必要とされ、大きな葛藤と闘いながら 37 年間勤務した。子ど

もたちの「今日」と出会ってきた。吉崎さんは語る。「神様が、わたしをここに置いてくださった、そのことの不思議な意味を考えた」。

それからは、教会が支えであった。長老として、教会学校教師として、高岡教会に仕え続ける。ところが、2018 年 12 月と 2019 年 5 月、教会に送り出されていった夫と介護してきた義父の死を経験する。大きな喪失感と、信仰を持たずに召された夫を思いながら、神様、どうしてですか、と問い続けて 5 か月間、礼拝を離れた。祈ることも聖書を読む力もなくなり、たびたび訪問してくれ

る牧師が頼りであった。

そのような中、再び礼拝に出席したときは、座ったとたん涙が止まらなかった、と言う。ただいま、と礼拝堂に入った。そののち 9 月最初の祈禱会で、ヨハネによる福音書 14 章の御言葉を聞き心に激動を感じた。「心を騒がせるな。神を信じなさい」。今まで心揺るがせてきたことに対して、神様への信頼のない自分を痛感した。しかし、イエス様はこんなわたしを導いて天のすみか場所を用意してくださる。それが何よりうれしかった。今の苦しみ以上に、主が伴っていてくださるとの喜びが倍增した。

6 月に開催された新任教師オリエンテーションに参加した。すでに本紙において報告されているように、新任教師がお互いに知り合い、交わり、恵み豊かな三日間を過ごすことができた。また、今回も教師委員会において良い準備がなされ、大変充実した内容であった。

その中でも毎年楽しみにしているプログラムは「牧会講話」である。今年は小林眞教師（岩槻教会）が担当された。小林教師は講演において、50 年にならんとする牧師としての豊富な経

験の中から伝道者としての召命に込める姿勢として、聖書を正しく深く読むこと、教会形成に資する人間関係を構築すること、教会に仕えることなどを話

我召されたり、故に我あり

された。毎回、このオリエンテーションにおいて自分自身の伝道者としての召命の恵みを新たにすると、伝道者の生涯は神の召しにゆだねられていく生涯であり、伝道者としての歩みは自分

の働きの上に立つのではなく、いつも神からの召しによって立たされているものであること、それは、『人の正しさ』が壊され、『神の義しさ』が立つことであると教えられた。

伝道者として立たされた時、大先輩が話してくださった言葉は、「我召されたり、故に我あり」であった。一伝道者として、一信仰者として、生涯主の召しに忠実であるために、主の支えと導きとをあらためて祈られたオリエンテーションであった。

(教団総会書記 雲然俊美)